

# 経営戦略方針2022～2025（素案） についての意見照会

日時：令和4年（2022年）6月29日、30日

委員名：経営改革専門員 長内 厚  
（敬称略） 経営改革専門員 下田 ひとみ  
経営改革専門員 野田 遊  
経営改革専門員 藤本 加代子

- ① 行政が、妊娠や出産、子育ての支援をする拠点として「ネウボラ」(フィンランド発祥)という仕組みがある。子育て支援を産前から切れめなく行うことができるが、フィンランドでは就学前までを対象としている。子育て世代が抱える課題は、就学前に限定されるわけではないので、小学校に入ってもネウボラのような支援は必要ではないか。
- ② 継続して相談支援ができて、一緒に相談しながら必要な情報を得ることができる、「子育てケアマネ」がいるといいのでは。(千葉県浦安市では、子育てケアプランの制度を実施)
- ③ たくさんの情報や解決する策があったとしても、適切なタイミングで知って使えてこそ。困っている子育て世代が自力でその情報にたどりつく、使いこなすことは非常に困難で、「困った」を一緒に考えることができる「子育てケアマネ」がいることで、安心して子育てができると思う。
- ④ 困りごとに対して必要な情報を整理し一緒に考えていける併走型の支援が切れめない支援になることで、「安心して産み育てることができるまち」に繋がるのではないか。

- ⑤ 令和4年度補正予算で計上されている「子育て応援クーポン配布事業」は、「モノ(商品)」というよりも、育児支援のような「人」が介入したり、**繋がりが生まれたりするサービス**を対象とするのがよいと思う。
- ⑥ 豊中市に住む人、住みたい人は、比較的所得の高い人や転勤してくる人が多いと思う。子育て支援施策等で対象に所得制限を設けると、そうした担税力が高く市に大きく貢献してくれている層が居住するモチベーション低下につながりかねない。このため**所得制限はできる限りつくり**、みんなが豊中市に住みたくなるような政策を推進すべき。
- ⑦ 今の日本の教育に足りないものは**英語**とITだと思う。英語は幼いころから触れることが大切。豊中市には、大阪大学に籍を置く留学生が多いので、もっと普段から英語に**触れ合う機会**を作れたらよいと思う。
- ⑧ 日本のこどもは、塾に通ったりして知識は豊富だが、その知識を実社会で生かせていないと感じる。日本では、新卒で就職した場合、まず社員教育をしっかりする必要がある。**仕事で必要なことを、学校で学べる**ような仕組み作りをしてほしい。

- ⑨ 海外では、こどものころから「何をしたい?」「将来どうなりたい?」という言葉をかけて教育することで、自主性を育てている。
- ⑩ 大阪商工会議所主催の「第1期大阪サクヤヒメ表彰」を受賞した女性起業家や企業の管理職の有志が集まり発足した「万博サクヤヒメ会議」の活動で、女性リーダーが今の仕事とそれに至るまでに経験したこと学んだことを中学、高校、大学に出向き、学生に紹介している。働く人のロールモデルを知ってもらう機会を増やし、仕事の楽しさを子どもに教えられたらと思う。
- ⑪ 学校トイレの改修について、男・女のほか「誰でも使えるトイレ」を設置してみてもいい。障がいの有無や性別に関係なく、利用できるようにすることでダイバーシティ教育にもつながると思う。

- ① ヤングケアラーの支援も重要だが、ダブルケアで困っている世帯も増えている。
- ② 「家族丸ごと」の課題を包括的に相談できる場所が必要であると感じる。
- ③ 「福祉の磁石(ウエルフェア・マグネット)」という社会福祉の充実した自治体が周囲から福祉を必要とする人を引き寄せ、結果として自治体財政が厳しくなり、サービス水準を維持できなくなる現象がある。福祉施策の充実は重要である一方、財政面を勘案しながらどのレベルまでやるのかは考えるべき。

- ① デジタルガバメント推進は、デジタルの環境整備のみでなく、**対面サービスの必要性も併せて打ち出した方が**良い。デジタル化推進のみでは市役所が冷たい印象を与えかねない。市民が**安心感**を持てるように。
- ② 「生産性の向上」は、**市民満足度の向上**につながる指標である。これは市民が問題視しているのは民間と比べた公務員の非生産であることによる。
- ③ デジタル分野は豊中の強みである。サービスの質や生産性を、一層向上させていくためには、どうしても個人情報が必要なため、扱える**情報の範囲を広げる**ことも鍵となる。先進事例では、会津若松市が市民情報を**オプトイン方式**で提供してもらい、スマートシティの実現に向けて取り組んでいる。

- ① 南部地域活性化は魅力的な取り組みであると思う。また、南部地域での成功体験を中部・北部地域に展開していくと併せて打ち出すことで、**全市民**が南部地域活性化を**自分事**として捉えるようになると思う。
- ② 何かの分野でトップランナーであることは市のブランド価値として重要である。豊中市においては、**デジタル**や**南部地域の教育**で日本一を目指して取り組んでほしい。「広く、浅く」ではなく、「**とんがった一番**」をつくるのが良いと思う。
- ③ 少子高齢化を解決すべき課題と位置付けて取り組まなくても、**誰もが働きやすい・住みやすいまちづくり**を意識して施策を行うことで、自然と人が集まり、ゆくゆくは解消につながると思う。
- ④ 1つ1つの行政施策を個別に打ち出すのではなく、**つながりをもって**情報発信すると伝わりやすい。
- ⑤ 「経営戦略方針(案)」の「基本的な考え方」について、SDGsに加えて「**ダイバーシティの推進**」も更に記載することは良いと思う。SDGsは幅広い分野を網羅している分、全体を推進のみでは印象が薄くなる。**特化して取り組む**項目を打ち出したほうが伝わりやすい。